

ま え が き

本年度の留学生センター教育研究論集（第15巻）を発刊致します。第1巻が発刊されてから既に14年が経過し、内容も研究教育機関の紀要として、多様でレベルの高い研究成果を含むものとなっています。

留学生センターは1992年に学内の共同利用教育研究施設として設立され、現在はおよそ800人に及ぶ留学生を対象に、日本語教育、生活指導、短期留学などの分野を中心に、9名の専任教員を核として運営をしてきました。その教育活動は一方で旺盛な研究活動に裏打ちされており、多彩な研究活動を繰り広げながら、その成果を留学生センター、横浜国立大学の運営に反映させてきました。本号では、専任教員の専門分野に応じて、日本語教育、外国文学、言語学、日本現近代史、ろう教育など多彩な研究成果が紹介されています。

昨年度に石川雄一教授が定年で退職され、本年度はその定員が凍結され、さらに定員削減により来年度からは8名の専任教員によりセンターの運営を行っていくこととなります。これまで以上に教員一人一人の重みが増すこととなりますが、今後もさらに活発な教育研究活動を継続していくことが必要になってくると思います。

わが国は、国際社会において積極的な役割を果たしていくことが求められており、留学生教育はそのための重要な施策と位置づけられています。従って、留学生センターの役割は学内においても、また国際的にもますます大きなものになっていくことが予想されます。センターの活動がレベルの高い学術成果に裏打ちされてものになるために、今後もこの教育研究論集を大切に育てていきたいと考えております。

柴 山 知 也

留学生センター長（工学研究院教授）